

～三重から世界へ～

三重大学 学術機関リポジトリ 研究教育成果コレクション

MIUSE (ミューズ: 仮称)

Mie University Scholarly E-collections

## 学術機関リポジトリとは? — 研究教育成果のコレクションです

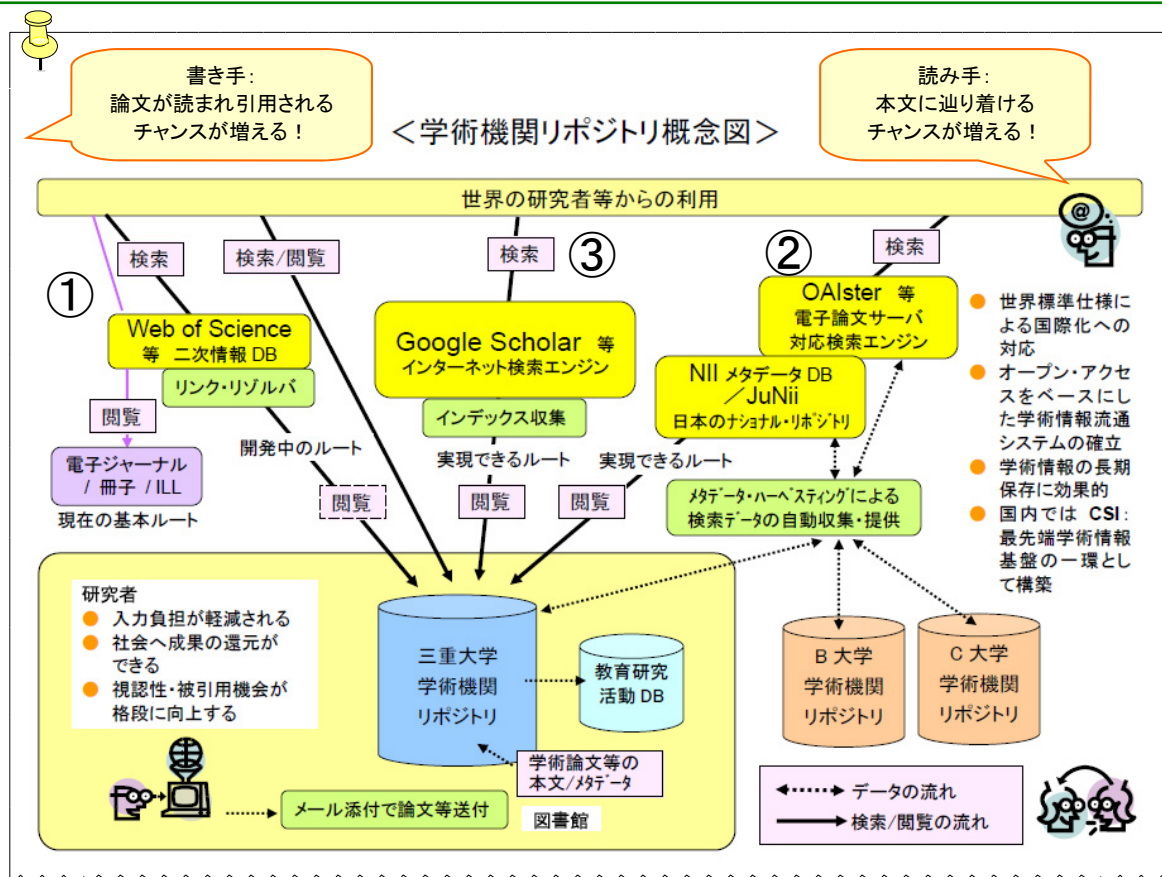
学術機関リポジトリ (Institutional Repository) とは、大学等の研究機関で生産された知的生産物を機関内に収集・蓄積・保存し、無償で発信するためのインターネット上の保存書庫です。世界では2006年8月現在、700以上の機関リポジトリが公開されています。

国内ではまだ約20大学程度ですが、三重大学はNII (国立情報学研究所) の平成18～19年度CSI (最先端学術情報基盤) 事業に応募し、高い評価を受けて採択され、本格的な構築を始めようとしています。

### 登録できるコンテンツ

三重大学に所属する教職員等の皆さまの研究教育成果物が対象になります。

文書は原則として全文をPDF化して保存します。査読論文 (海外/国内)、紀要、科研費等報告書、学位論文、学会・シンポジウム等関連資料のほか、教材、画像、動画、音声等も登録可能です。



論文等を世界へ発信!  
書き手と読み手が繋がります

仮サーバ: <http://hermes.lib.mie-u.ac.jp:8080/dspace/>

## こんなことでお困りではありませんか？

- 研究教育成果物の散逸が心配
- 研究教育成果物が埋もれてしまっている
- 教育研究活動DBの入力に時間を取られている



忙しい研究者にこそ、活用して  
いただきたい・・・  
「解決策」がここにあります。

## MIUSEへの登録は、論文等をメール添付や学内便で送るだけ

### メリットは？ — 研究者、大学、地域社会、世界に大きなメリットがあります

#### 大学としてのメリット

- 教育研究成果を永続的に集積・管理・公開することで、**社会に対する説明責任**が果たせます。
- 一元的に成果を公開するため、**大学のブランド力**が高まります。
- 学術情報のポーン・デジタル化（初めから電子的に作成・収集）と、過去に遡った成果の電子化を事業の両輪とすることで、**網羅的なコレクション**が構築できます。

#### 研究者のメリット

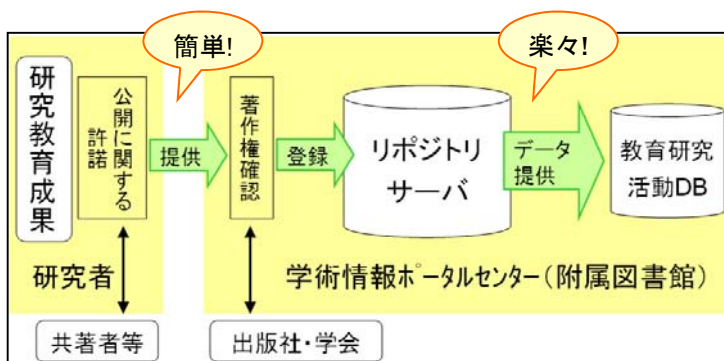
- **負担の軽減**  
機関リポジトリから教育研究活動DBへデータが送られるため、入力負担が軽減されます。研究者や学部・学科単位でのコンテンツ保存の負担が軽減されます。
- **成果の効果的発信**  
新たな発信ルートで、論文等の視認性・被引用機会の向上が期待されます。

#### 地域社会、世界のメリット

- 学術雑誌の価格高騰で雑誌/電子ジャーナルが購読できないと、論文は恵まれた環境にあるごく一部の研究者しか読めません。機関リポジトリの公開で、世界中の研究者が論文等の全文を読むことができるようになり、**情報格差が是正**されます。
- 世界的なオープン・アクセスの流れによって、**学術情報の流通ルートが新たに確立**されます。
- 本文に加え、メタデータ（著者名、論文名、掲載雑誌名、巻号ページ、抄録ほか）を世界標準に準拠した規格で公開するため、Google Scholar等での**検索ヒット率が向上**し、**本文へのアクセスが容易**になります。

### 登録の手順は？ — 簡単です

### 著作権処理は？ — お任せください



- 先生方からは、著作物の公開に関する許諾をいただきます（共著者の許諾もお願いいたします）。
- 投稿された論文等（海外出版社の場合は著者最終稿）をメールの添付又は学内便でお送りください。
- 図書館が、出版社や学会等との間で著作権の確認を行い、PDF化、メタデータ作成、機関リポジトリへの登録等を行います。
- 機関リポジトリから教育研究活動DBへデータが送られます。

- 海外出版社が発行する雑誌の約90%以上で機関リポジトリでのセルフアーカイビングが認められています。
- 国内学会等の多くも、機関リポジトリでのセルフアーカイビングを認めています。
- 特許を出そうとしている場合には、機関リポジトリへの登録はできません。
- 学位論文（博士論文、修士論文）の扱い、科研費報告書等の提出方法は、関係部局と調整する予定です。

### お問い合わせ・送付先： — まずは、ご一報ください

学術情報ポータルセンター(附属図書館)情報リテラシー担当 内線:2208  
担当者メールアドレス: [dspace@ab.mie-u.ac.jp](mailto:dspace@ab.mie-u.ac.jp)